

## 5. 釧路川下流(旧川部)の現況

### 5-1 これまでの経緯と現況

釧路川下流域は、昭和5年10月1日に放水路(新釧路川)開削・通水が行われ、岩保木水門による流路の切り替えとなっています。以来、旧川部(現在の釧路川)への通水は、水門の常時閉扉により行われず、釧路川の流水はすべて新釧路川へ流下しています。

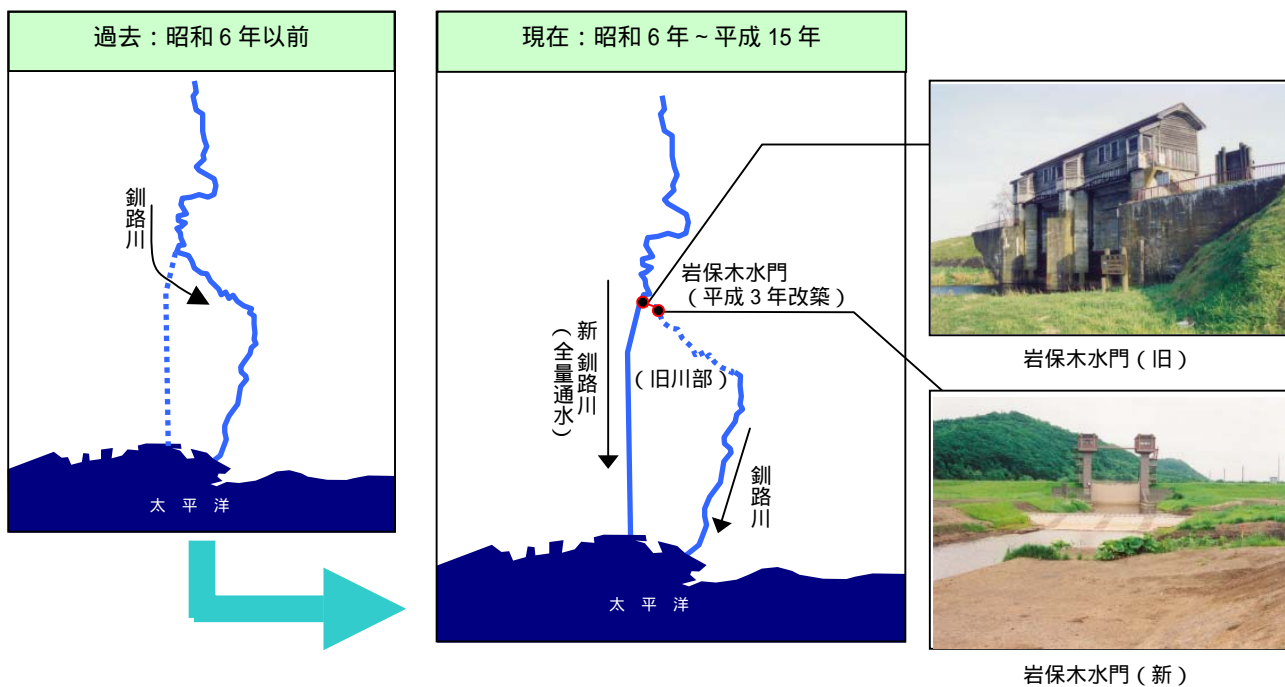


図 2-18 釧路川下流(旧川部)のこれまでの経緯

## 5-2 釧路川下流(旧川部)の河川環境

岩保木水門から下流の釧路川(旧川部)は閉扉後 50 年余り止水状態が続いているため、一般的な河川環境とは異なった生態系が形成されています。特に流水中には少ない水生植物が繁茂しており、動物の生物の生息環境、採餌環境を提供しています。表 2-8 には平成 6 年～平成 9 年に行われた生物調査の結果を示します。

表 2-8 生物調査結果(平成 6 年～平成 9 年)

調 査 項 目	結 果
植 物 (図 2-19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状植生は、河岸はヨシ、イワノガリヤスが優占していた。</li> <li>・ 河道に近く、水位の高いところにはヤラメスゲ、マコモ、ミクリが生育していた。</li> <li>・ ヒンジモは調査範囲のほぼ全域で確認されたが、中流域では多く、上流の岩保木水門付近や最下流では少なかった。</li> <li>・ ネムロコウホネ、サジオモダカ、ヒルムシロ、ミクリ、ヒシはほぼ全域で確認された。ヒルムシロは岩保木水門付近、ネムロコウホネ、ヒシ、ホザキノフサモは中流～下流に多くみられた。</li> <li>・ ウキクサ類は釧路川(旧川部)全域に分布し、岩保木水門及び釧路川(旧川部)の上、中、下流で採取したウキクサ類にはキタグニコウキクサも含まれていた。</li> <li>・ 河道周辺のヤナギの樹齢は 10 年前後、ハンノキの樹齢は 10～45 年であったことから、現存するヤナギ類及びハンノキは全て岩保木水門の閉門後に生育を開始していた。</li> </ul>
鳥 類 (表 2-9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タンチョウは釧路川(旧川部)周辺に 3 つがい確認された。これらのつがいの行動圏は釧路川(旧川部)右岸の畑、湿地、左岸側の草原等であった。</li> <li>・ 河川環境ではカイツブリ、アオサギ等の水域性の種が、森林環境ではヤマゲラ、オオルリ等の森林性の種が主体となっていた。</li> <li>・ 草原環境ではオオジシギ、ヒバリ等の草原性の普通種が広くみられるほか、コヨシキリなど湿原に特有な種も確認された。</li> </ul>
キタサンショウウオ産卵池	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卵囊対が 11 か所で確認された。</li> <li>・ 釧路川築堤法面付近で多くみられたほか、岩保木水門付近やトリトウシ地区の側溝でも確認された。</li> </ul>
魚 類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 釧路川(旧川部)ではエゾウグイ、イバラトミヨ、ジュズカケハゼなど 8 科 19 種、旧雪裡川ではワカサギ、イバラトミヨ、ヌマガレイなど 7 科 15 種が確認された。</li> <li>・ 釧路川の雪裡橋では海水性のトウガレイ及びナガガジが確認された。</li> <li>・ 遠矢川合流点付近より上流では、純淡水性魚類のヤチウグイ、ギンブナ、エゾトミヨが確認された。</li> </ul>
底 生 動 物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 釧路川(旧川部)では汽水性のゴカイ、淡水性のマルタニシ及びオオトラフトンボなど 27 種、旧雪裡川では汽水性のゴカイ及びカキビル、淡水性のエゾマメタニシ、トゲオヨコエビなど 23 種が確認された。</li> <li>・ 釧路川雪裡橋では汽水性及び汽水性～海水性の種が確認された。</li> <li>・ 遠矢川合流点下流では淡水性の種が確認された。</li> </ul>

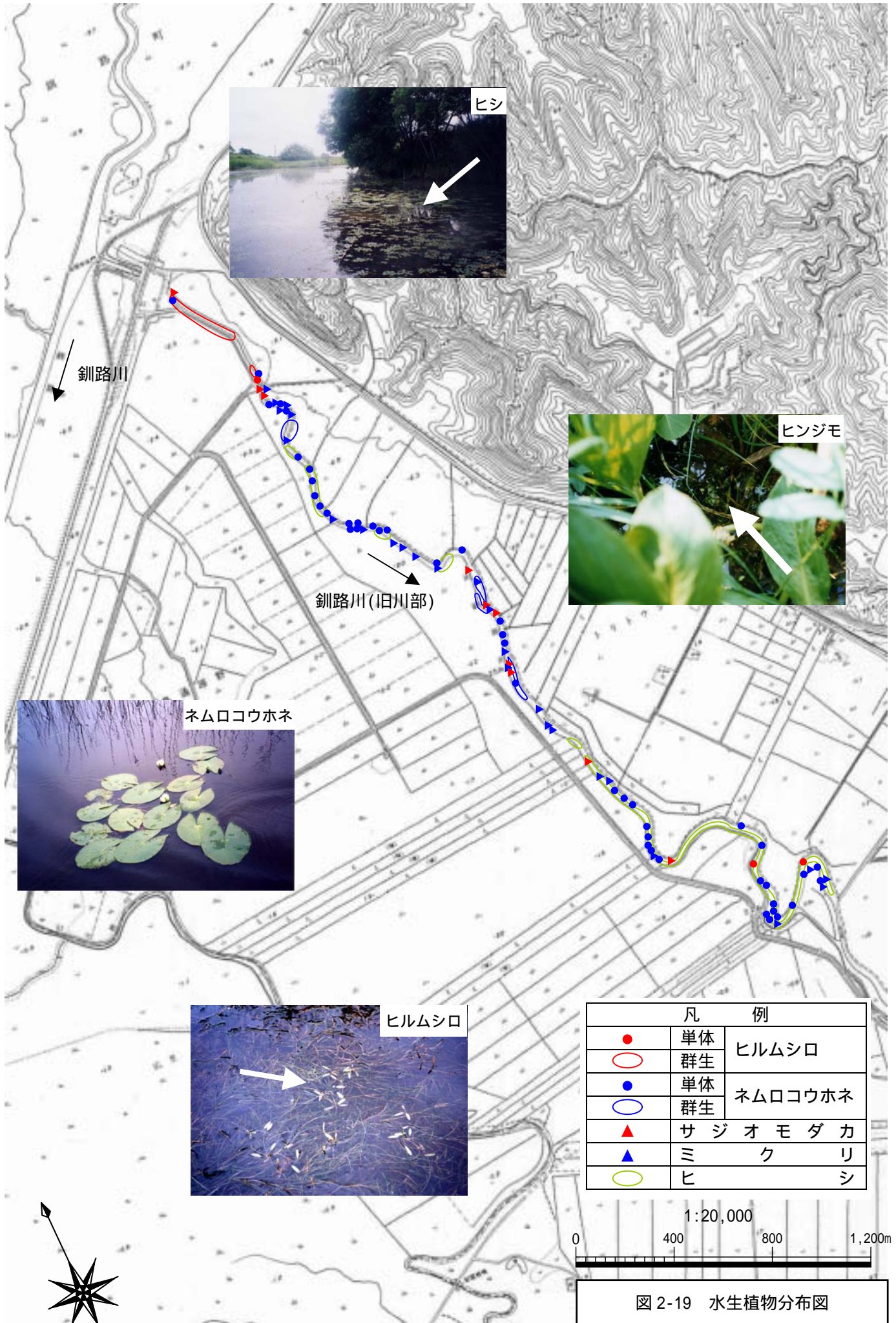


図 2-19 水生植物分布図

表 2-9 確認された鳥類一覧

科名	種名	科名	種名
カイツブリ	カイツブリ	ツバメ	ショウドウツバメ
サギ	アオサギ		ツバメ
ガンカモ	ヒシクイ	セキレイ	ハクセキレイ
	オオハクチョウ	ヒヨドリ	ビンズイ
	マガモ	モズ	ヒヨドリ
	カルガモ		モズ
	コガモ		ノビタキ
	ヨシガモ		ツグミ
	ヒドリガモ		ウグイス
	オナガガモ		エゾセンニュウ
	ハシビロガモ		シマセンニュウ
	キンクロハジロ		マキノセンニュウ
	スズガモ		コヨシキリ
	カワアイサ		エゾムシクイ
	ワシタカ	トビ	
ハイタカ			オオルリ
ハイイロチュウヒ		エナガ	エナガ
ハヤブサ	ハヤブサ	シジュウカラ	ハシブトガラ
ツル	タンチョウ		コガラ
シギ	キアシシギ		ヒガラ
	イソシギ		ヤマガラ
	オオジシギ		シジュウカラ
カモメ	ユリカモメ	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ
	セグロカモメ	メジロ	メジロ
	オオセグロカモメ	ホオジロ	ホオジロ
	ウミネコ		カシラダカ
ハト	キジバト		アオジ
	ドバト		オオジュリン
ホトトギス	カッコウ	アトリ	カワラヒワ
	ツツドリ		ベニマシコ
アマツバメ	ハリオアマツバメ		ウソ
カワセミ	ヤマセミ	ハタオリドリ	スズメ
キツツキ	アリスイ	ムクドリ	ムクドリ
	ヤマゲラ	カラス	カケス
	アカゲラ		ハシボソガラス
	コゲラ		ハシブトガラス
	ヒバリ	28科	73種



オオハクチョウ



タンチョウ

写真 2-2 確認された鳥類

### 5-3 自然環境保全の上で注目すべき点

閉扉後 50 年以上たっているため、岩保木水門から丹頂橋までの区間は止水～低流速域となっており、釧路川本川とは異なった生態系が形成されています。この区間では止水～低流速域に生息・生育する着目すべき魚類(イバラトミヨ、エゾトミヨ等)や水生植物(ヒンジモ、ミクリ等)が多数確認されています。丹頂橋から下流は塩水楔が確認されており、この区間では汽水性の底生動物も確認されています。また、特別天然記念物に指定されているタンチョウ(釧路川の周辺では 2 つがい)や天然記念物に指定されているキタサンショウウオが河道周辺で確認されており、(旧)釧路川下流の環境として注目すべき点であります。

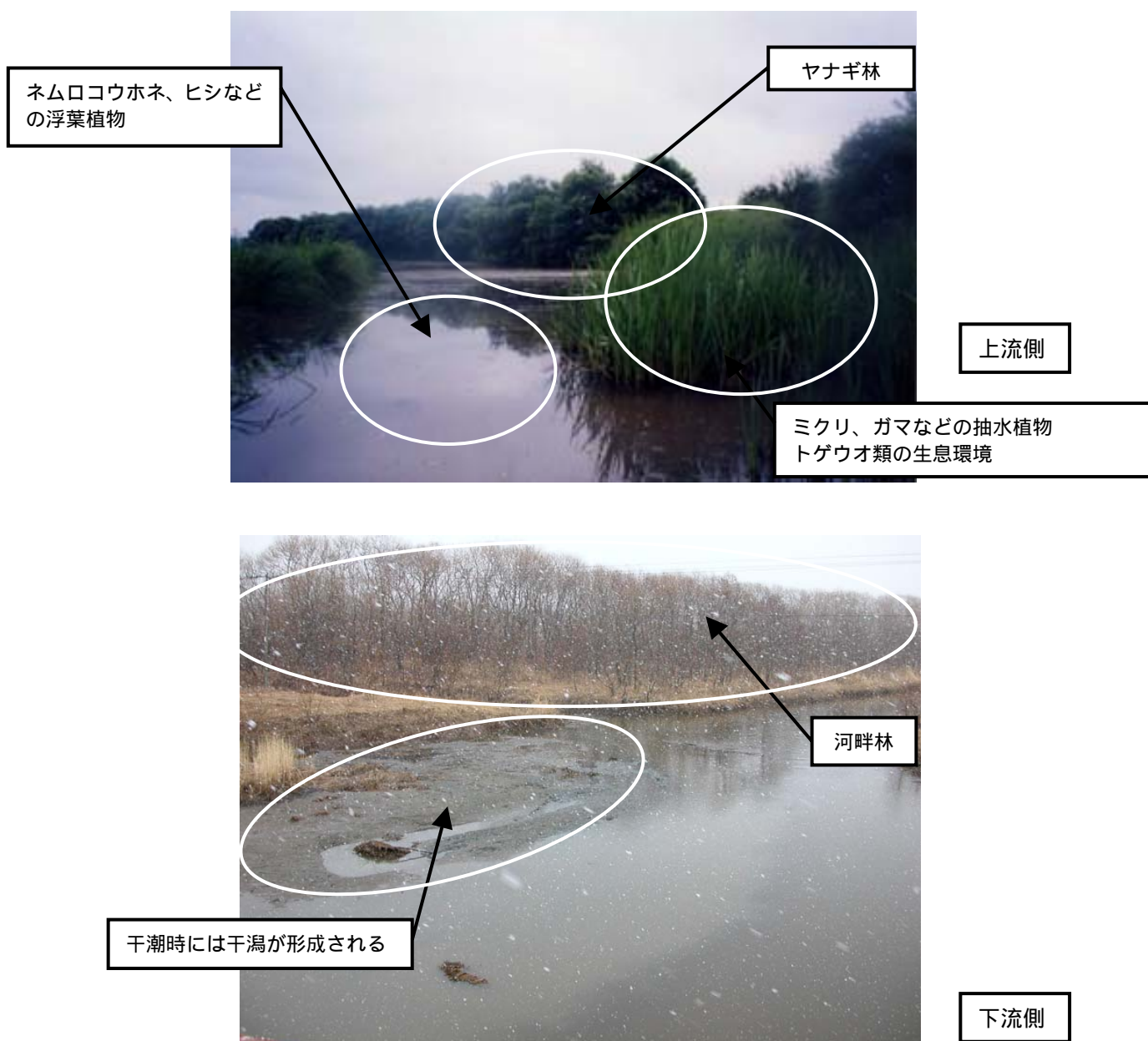


写真 2-3 注目すべき環境